

内視鏡手術30年



開腹による外科手術と比べ、患者さんへの負担が少ない「内視鏡手術」。2020年は、そのうちの一つである腹腔鏡手術が日本で初めて行われたから、ちょうど30年にあたります。

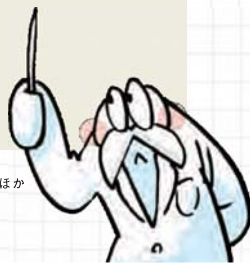
進歩を続ける内視鏡手術

今から約120年前の1901年、ドイツの消化器外科医が、腹部を大きく切開することなく体の内部の臓器を観察する方法を考え出しました。これが内視鏡手術の始まりともいわれています。当時は、今のような画像診断ができなかった時代。「検査のためだけの開腹手術を避けたい」という医師の想いが、内視鏡手術の開発につながったのです。

とはいえ、内視鏡を使った外科手術がそれまでの手術の常識を変えることになるのは、80年代後半のこと。カメラ映像機器などの進歩により、日本では1990年に初めて腹腔鏡手術が成功します。それから30年、現在では腹腔鏡のみならず多くの診療科で内視鏡手術が行われるようになりました。患者さんの立場に立った1人の医師の想いは、多くの技術者や医療従事者の努力とともに、現在に受け継がれているのです。

内視鏡を使った外科手術の歩み

- 《1901年》
ドイツの消化器外科医ケリングが腹腔鏡手術の動物実験を繰り返し翌年学会で発表
- 《1987年》
フランスの外科医モレがCCDカメラとテレビモニターを使用した腹腔鏡による胆のう摘出術を実施
- 《1990年》
帝京大学の山川達郎教授が日本初の腹腔鏡下胆のう摘出術に成功
- 《1992年》
日本で腹腔鏡下の胆のう摘出術が保険適用に。以降、さまざまな分野に広がる
- 《1999年》
内視鏡手術支援ロボットda Vinci (ダビンチ) 発売



胃・食道

高精細の内視鏡なら 正確でいい手術が可能です

兵庫医科大学病院の上部消化管外科が得意とするのは「胃がん」「食道がん」「肥満症減量手術※」などの内視鏡手術です。

最近の機器には3Dや高精細のカメラが使われていて、奥深い部分の臓器なども鮮明に見ることができます。特に胃がんや食道がんなどの手術では、出血しやすい細い血管や傷つけてはいけない細い神経等を拡大して確認できるので、正確でいい手術ができるようになりました。多くの医療施設では上腹部に5cmほどの穴を開けて行う腹腔鏡「補助下」手術が多いですが、当院ではより傷口が少ない「完全腹腔鏡手術」を実践しており、内臓脂肪の多い方にも柔軟に対応しています。

上部消化管外科では、医師7名中5名が日本内視鏡外科学会 技術認定医です。日頃からトレーニングを積み、多くの実績をあげていますので、ぜひ安心して治療を受けてください。

※胃の約80%を切除して胃を小さくする手術



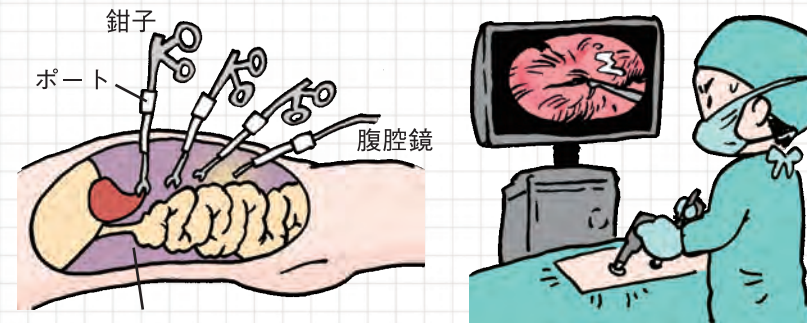
上部消化管外科
篠原 尚 主任教授



内視鏡手術とは

体の数か所に直径5~10mm程度の小さな穴を開け、そこにポートと呼ばれる器具を挿入して、内視鏡(カメラ)や、電気メス、ピンセット、はさみ等がついた特殊な器具を入れ、テレビモニターに映し出された映像を見ながら手術を行います。

小さな穴ですむため、患者さんの体への負担が少なく、入院期間が短くなる場合がほとんどです。開腹手術と比べて、早期の社会復帰が可能となります。



炭酸ガスで腹腔内を膨らませる

兵庫医科大学病院の 「内視鏡手術」

専門医に聞きました!

大腸・小腸

他院では難しい 難易度の高い手術も実施

下部消化管外科では今年、米国のメーカーの最新の内視鏡を日本で初めて導入。カメラの拡大率が15~20倍になり、4Kの精細な画面で見ることができると、さらに細やかな手術が可能になりました。また、拡大画像は手術に参加していない医師も見ることができますが、画面を見ながら手術の方法や技術などを共有できるので、手術のクオリティも上がっています。

大腸がんの場合、当院では、他の病院では治療が難しいような進行がんも含め、基本的に腹腔鏡での手術を推奨しており、2018年の手術数約200例のうち、腹腔鏡手術は173例でした。直腸がんは局所再発する割合が高く、特に再発時は手術の難易度がより高くなりますが、手術で何とかできる可能性がある病気です。決してあきらめずに受診してください。



4K画像が見られる
最新内視鏡システム



下部消化管外科
池田 正孝 教授



内視鏡手術のメリット

痛みが少ない

回復が早い

入院が短くてすむ

あと痕がほとんど
わからない

腸の癒着が
ほとんど起こらない

兵庫医科大学病院では、以下の診療科で 患者さんにやさしい内視鏡手術を行っています

上部消化管外科/下部消化管外科/肝・胆・膵外科/心血管外科/
泌尿器科/呼吸器外科/整形外科/耳鼻咽喉科/頭頸部外科/
脳神経外科/産科婦人科/小児外科/炎症性腸疾患外科/
形成外科 など

兵庫医科大学病院では、腹腔鏡や胸腔鏡などを使用した、患者さんに負担の少ない内視鏡手術を積極的に取り入れていきます。

